



3年の磯貝さんグランプリの快挙 ユニセフ・ビデオコンテスト 木幡さん優秀賞

国連のユニセフ（国連児童基金）と協力関係にある日本ユニセフ協会（本部・東京）が募集する第4回ユニセフ One Minute Video コンテスト(文部科学省後援)で、茨城大学人文学部3年の磯貝麻菜（メディア文化コース）さんらのビデオが最優秀賞（グランプリ）、同2年の木幡紗綾子さんらの作品も銀メダルに当たる優秀賞を獲得した。

本学学生が、グランプリに輝いたのは初めてで、入賞は3年連続。指導に当たったメディアコースの村上信夫教授は、「15回の専門科目で、しかも映像制作が初めてという学生の2作品が、最優秀賞、優秀賞を獲得したのは快挙」と喜んでいる。



ユニセフが募集した作品のテーマは、「すべての子どもにやさしい世界を～みんなの約束 子どもの権利条約～」。これに沿って1分間のビデオ作品を制作した。対象は、小中高、専門学校生を含む大学生。応募作品は、全国から500超に上った。



磯貝さんは、「子供からのSOSに気付いて」をモチーフに「From Children, Dear...」のタイトルの作品を完成させた。増加の一途をたどる児童虐待に焦点をあて、周りの大人は気づいても、通報できず、手遅れになる現状を取り上げた。その上で、子供の権利を守ってあげられるのは、周りの大人、尊い命が失われる前に、子供の苦しむ現状と向き合い、救うための一歩を踏み出して欲しいとの思いを込めた。

優秀賞の木幡さんは、アニメによる「hands」というタイトルの作品。世界に広がる児童労働の現状を伝え、その手（hands）が掴むべきものは何なのかを訴えた。

受賞について、磯貝さんは、「作品は議論の結晶。ワンカットを伝えるためひとつひとつ全員で向き合った。子供の権利について話し合いを重ねたことは子供の問題と向き合う良い機会になった」と語っている。木幡さんは、「アニメの制作は、仕事量がとても多くて大変だったが良い経験になった」と振り返っていた。



磯貝さんのチームの他のメンバーは、人間科学コース3年の貝塚美加さん、メディアコース3年の江連里恵さん、同渡邊柚菜さん、研究生の劉旭さん。木幡さんのチームもメディアコース3年の玉造真帆さん、江尻春香さん、武田優希さん、湯山望さん。

グランプリと優秀賞は、後日、このホームページにアップします。乞うご期待を。

(終)

